

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月22日

【評価実施概要】

事業所番号	4271102073
法人名	社会福祉法人 日浦会
事業所名	社会福祉法人日浦会 認知症高齢者グループホーム レーブそとめ貳番館
所在地 (電話番号)	長崎県長崎市上黒崎町2199-15 (電話) 0959-25-0871

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年1月17日	評価確定日	平成20年5月8日

【情報提供票より】(平成19年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物形態	単独(但し、同敷地内に老人施設と併設)	新築
建物構造	木造	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	65 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 外海弘仁会 日浦病院、あさだ歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長年、医療・福祉活動に携わってきた医療法人を母体とし、高齢者施設も多く抱えている事から安心できる体制になっている。山深い斜面を切り崩した土地を造成し、併設の老人施設やホームと共に広い敷地の中で花壇や畑を利用し作る楽しみを体感できるホームである。法人代表は「ご入居者には美味しいものを食べて頂く」という考えで、週2回調理師によるホームの台所での調理指導や職員に対して月1回の料理教室が行われている。また、ホームの敷地に入る際の桜並木は美しく多くの方を魅了しており、ホームから眺める景色も山々と海が見渡せ安らぎを与えてくれている。その反面、民家と離れている事からなかなか地域との接点が少なく疎遠になりがちであったが、運営推進会議等を通して次第に地域との交流を深めており、今後益々地域との交流が期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護経過記録の様式を変更し計画に沿った記録を行い、個別的に記載されるようになりつつある。トイレ誘導の声かけを工夫し職員間で注意し合い、様子を察知し早めに対応するように支援している。緊急時のマニュアル作成し家族の同意を得て定期受診の他に年1回の健康診断を受け、異常の早期発見につなげ健康の支援を行っている。外部研修に出来るだけ参加できるようにし、職員の育成・ケアの向上に努めている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価等は管理者が職員に説明し全員に配り記入して貰い、皆で話し合い管理者とケアマネジャーがまとめた。項目の理解が難しい部分も多かったが、皆で考え評価をしていく事で、ケアの振り返りとなり課題が見えてきた。前回評価結果に基づき、全員で検討したが改善計画書迄は作成していない。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>H.19.2に顔見知りになる事を大前提として第1回目が開催され、ホームの活動内容や自己評価結果、意見交換を行い、子供会との交流の提案や入居者の暮らしぶりを見学したいというご要望を頂き、受け入れ準備を整えている。開催日のお知らせを持って行ったり、会議で取り上げて欲しい事等お聞きし積極的に参加して頂けるよう取り組んでいる。直接市役所を訪問する事はないが、推進会議の開催について相談し、助言を受けながら開催している。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホーム内での様子を掲載した“貳番館だより”や面会時、3ヶ月毎のサービス担当者会議で報告し、健康状態等の緊急を要する時は電話で報告を行っている。面会時に出納帳を見て確認印を頂いたり、職員の異動をホーム便りや面会時にお伝えしている。ご意見箱を設置や必要に応じて、法人の相談員や事務窓口をお伝えするだけでなく、面会時やサービス担当者会議の時に「何かないですか」と、お尋ねしご意見頂いた時にサービス担当者会議で話し合ったり、ホーム内での解決が困難な時は法人全体での取り組みを行っている。</p>
	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会からのお誘いで公民館の盆踊りに参加し入居者と一緒には踊ったり、産業祭りの展示会に、入居者の作品を出品したり見学に行っている。子供会から「もぐらうち」行事に来て貰ったり、併設施設に幼稚園の慰問がある時に参加している。法人敷地内でゲートボール大会があった時や、自治会長より見学の希望があり「何時でも来て下さい」とお伝えしている。子供育成会の空き缶回収に入居者と手伝いに行ったり、地域との交流に努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	病院のない地域で医療活動を始め地域の方の健康管理をし、地域に貢献するという思いの法人理念を基に、入居者や家族の方、お客様に接する時に“明るい笑顔、明るい挨拶”という気持ちを職員が持てるようにという思いで、H.18年ISO取得時に職員全員で話し合い“ご利用される皆様に笑顔で対応します”という理念を作り上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	併設施設で行われる毎朝の申し送りに、当日のリーダーが集まり理念を踏まえ“心訓、人生訓”を取り入れ唱和している。主任会議で院長から施設全体の事や現状について話され、レーブ会議や日々の現場で、あたり前のことだけど常に意識し、やさしい声かけ・笑顔で対応するよう取り組んでいる。理念を玄関に掲示し職員全体に自然に浸透している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会からのお誘いで地域の盆踊りに参加し入居者と一緒に踊ったり、ふるさと祭りの展示会に、入居者の作品を出品したり見学に行っている。子供会から「もぐらうち」行事に来て貰ったり、併設施設に幼稚園の慰問がある時に参加している。法人敷地内でゲートボール大会があった時や、自治会長より見学の希望があり「何時でも来てください」とお伝えしている。子供育成会の空き缶回収に入居者と手伝いに行ったり、地域との交流に努めている。	○	ホーム行事に参加して頂けるような声かけや、顔見知りになって遊びに来て頂く事、ホームを見学に来て頂き一緒にレクレーションに参加して頂く等を考えており、今後の取り組みに期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長は評価の意義を踏まえ事務長・管理者に委ねており、自己評価等は管理者が職員に説明し全員に配り記入して貰い、皆で話し合い管理者とケアマネジャーがまとめた。項目の理解が難しい部分も多かったが、皆で考え評価をしていく事で、ケアの振り返りとなり課題が見えてきた。前回評価結果に基づき、全員で検討したが改善計画書迄は作成していない。	○	法人施設があることによるホームの利点を活かしながら、改善計画書を作成し目標を設定を行う事で、意識して取り組んでいけると考えられる。今後の取り組みに期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、自治会長、市職員、ホーム職員でH.19.2に顔見知りになる事を大前提として第1回目を開催し、ホームの活動内容や今回の自己評価の報告、意見交換を行っている。家族から子供会との交流の提案や自治会長から老人会で、入居者の暮らしぶりを見学したいというご要望を頂き、受け入れ準備を整えている。会議席上で次回開催日を決め、自治会長・市職員と相談しながら日程調整を行い、管理者が地域住民である事から日程のお知らせを持って行ったり、会議で取り上げて欲しい事等聞き積極的に参加して頂けるよう取り組んでいる。	○	必要に応じて消防団の方や駐在さん、保育園の園長先生、地域の方に声かけして参加して頂き、会議をきっかけに顔見知りの関係から交流の拡大、ホームの機能の還元等、今後取り組んでいかれる事に期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	併設施設の相談員やケアマネジャーが、市役所へ書類等の手続きに行きついで、直接市役所を訪問し情報提供等は行っていない。課題について特に相談等行っていないが、推進会議の開催について相談し、助言を受けながら開催している。	○	推進会議を利用して、権利擁護や介護保険制度について講話をして頂く等、連携を図りたいと考えており、取り組みに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム内での様子を掲載した“式番館だより”を、請求書と一緒に定期的にお送りし、面会時や3ヶ月毎のサービス担当者会議で報告している。家族によって知りたい内容の差がある事を把握し、健康状態等の緊急を要する時は電話でお話し、個別の報告を行っている。面会時に出納帳を見て頂き領収書・レシートをお渡しし確認印を頂き、職員の異動はホーム便りでお知らせしたり面会時にお伝えしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し入居時に市等の相談窓口をお伝えし、必要に応じて法人の相談員や事務窓口をお伝えしている。面会時やサービス担当者会議の時に「何かないですか」と常にお尋ねし、ご要望をお聞きするようにしご意見頂いた時に、サービス担当者会議で話し合ったり、ホーム内での解決が困難な時は法人全体での取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に運営者は職員の異動は行わないようにしているが、必要に応じてユニット間の異動を行う事がある。休みの希望に極力応じるようにし、法人全体の職員旅行、新年会や忘年会を行い、ホームで行う食事会の時に管理者が悩みや相談を受け、ストレス解消や離職の防止に努めている。新入職員とリーダーと一緒に勤務し実地指導や、情報提供を十分行っており入居者へのダメージを最小限にするよう取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修や管理者研修に管理者が参加し、会議の時に伝達したり定期的に併設施設との合同研修や、会議と同日に内部研修を行っている。ケアマネジャーや介護福祉士の受験講座を2ヶ月に1回開催し、資格取得の支援を行っている。事業所全体の研修計画はあるが、職員個々の経験や習熟度に応じての計画としては特に作成されていない。	○	スキルマップ等を検討中であり本人と話し合いをしながら、出来る事や得意な事に応じて力をつけていけるよう、職員個々の研修計画の立案に向けた取り組みに期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会には入っていないが第1回の研修会に参加し、ケアマネジャーが外部研修に参加した時に、他のホーム職員と話す機会があったり、訪問を行ったりしながらホームに必要な事を取り入れ、記録様式の変更や電話で情報交換を行っている。	○	新たな気付きや他ホームの良い所を取り入れていく等、相互訪問から始め相互研修に拡げていきたいと考えており、理事長・事務長と話し合われ積極的に取り組んでいかれる事に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設施設からの入居が多く入居決定し、前日に相談員から連絡があるが、職員は同じユニフォームを着ており、入居により不穏症状等みられる方はいない。入居後、家族の方に頻りに訪問して頂いたり、電話したりや来て頂くよう声かけをしている。	○	入居当初は家族の方に頻りに来て頂けるような声かけを続けていくと共に、顔馴染みの方が併設施設を利用される日を把握し、寄って頂けるよう声かけをしていきたいと考えており、今後の取り組みに期待していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の味付けや饅頭、うどん作り等を教えて頂いたり、入居者のペースに合せゆっくりと話をお聞きし、相手の気持ちや思っている事を推し量れるよう努め、自分が楽しくしていないと相手も楽しくない事や、笑顔が大切な事や感謝の気持ちをもって接する事が大切であると感じ、自分自身の違う一面を見出す事が出来た職員もいる。入居者から「夫婦は仲良くしなければ」「子供は大切に」と教えられたり「おかげでねえ」と感謝の言葉を掛けられ励まされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の望む暮らしについてほぼ把握できているが、本来どうしたいと思っているのか、時として掴めない事もあり今も取り組みを続けている。入居者の表情や行動から思いを汲み取ったり、生活歴や趣味等をお聞きし行動・表情の背景を推察する等、思いや希望・意向の把握に努めている。	○	生活歴や生活習慣の中から何に興味を示されるか、声かけ物品を示したり職員と話し合いながら、今後も検討を続けたいと考えており、取り組みに期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	『その人らしく暮らし続ける』為の具体的な課題は記載されているが、目標が大括りになっている部分もあり『地域で暮らす』視点が盛り込まれている方とそうでない方がいる。入居者が言われた言葉や馴染み言葉、やさしい単語に置き直す等の取り組みはされているが、行われているケアがすべて計画に記載されているとは言い難い状況であるが、担当者会議では本人、ご家族、職員と話し合い意向等を反映し、併設施設の医師・他専門職等の助言を頂き作成している。	○	より具体的な目標や『地域で暮らす』という視点を、全入居者の計画に盛り込み状況に応じて、担当者からケアのポイントを聞いたり、個別介護手順書の原案を作成して貰う等、皆で検討しながら計画作成したいと考えており、今後の取り組みに期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期的な計画見直しを行っているが、入居者・家族の要望や状態に変化が生じた時は、設定した時期の前でも臨機応変に見直しを行っている。毎月レーブ会議は開催されているが、全入居者のケアの変更の必要性について月に1回程度の検討は行っていない。	○	要望や状態の変化がない方についても、変化の兆しやケアの変更性について毎月検討し計画に反映させたいと考えており、取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設の看護師や医師と24時間体制で連絡・相談でき、看護師が必要に応じ訪問してくれたり、医師へ報告し指示を頂く等し、受診が必要な時は直ぐに搬送して対応している。通院介助や、家族と一緒にのお墓参りや美容室等の外出時、また外泊時などに日程調整や準備を行い、薬について等の支援方法や注意事項は書面に書いてお渡ししている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一般内科・外科・脳外科は同意と納得の上、協力医療機関で受診して頂いているが、それ以外の眼科・耳鼻科等の専門科は以前からのかかりつけ医で、家族と一緒に受診して頂いている。協力医療機関受診時は職員が通院介助し、状態に変化があった場合は速やかに報告しているが、変化がない時は面会時に報告している。家族だけで通院された場合は受診結果をお聞きし、併設施設の看護師を通じて医師に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの看取りはされない方針で、入居時に重度化した時や急変時は他施設に移って頂く事や、対応について説明し、全入居者・家族の意向の確認は出来ている。急変時は併設施設の看護師を通じ、連絡や指示を頂けるようになっており、状況に応じた対応が可能であり家族も安心されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に対する尊敬の念を持って接し、敬語で声かけを行うよう徹底している。入居者の繰り返しの言動や思い違いに対し、ミーティングで対処法を話し合い対応の統一を図っているが、否定的・指導的な言動が出る事もあり、職員同士注意しあい、排泄介助や入浴介助等、誘導の声かけは自尊心・羞恥心に配慮している。入居者や来訪者の前で申し送りや説明をしない等、個人情報の漏洩防止に努めているが、個人情報の書かれたメモを丸めて棄てたりする事もある。	○	入居者の繰り返しの言動に対する声かけの際に、一呼吸置いてから行うよう努めたいと考えており、互いに注意し合う事で常に意識できるようになる。個人情報の書かれたメモ紙の処理に於いても手破りする等、個人情報の漏えい防止に努められるよう期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝ホールに集まれた時「今日はどんな事をされますか」と声をかけ、来られない時は訪室し「どうかされましたか」と細めに声かけし、話をお聞きし趣味や興味のある事を引き出している。生活のリズムが取れるよう声かけや誘導は行いが無理強いせず、健康に支障のない範囲で納得される迄行って頂き、目的を忘れてしまわれた様子が見受けられる時は「何か忘れ物ですか」と尋ね、思い出されるまで待つ等ペースを尊重した支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや味見、盛り付け、食器の配膳・下膳やテーブル拭き等、出来る事を無理のない程度に参加して頂いている。美味しく楽しんで食べて頂けるよう、食事制限や嚥下力低下の為に食材・量・調理法が他の方と異なる時は盛り付けや器を工夫したり、職員も一緒に食卓につき視力障害のある方に声かけしながら食べている。旬の食材や菜園で採れた物の利用や、お弁当を作ってバスハイキングや花見に行く等、外出して食を楽しむ工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の回数をおおむね程度決め午前中に入ってもらっているが、希望があれば毎日入浴でき夕方を希望される方は、一番最後に入ってもらい満足されている。体調に無理のない範囲で入っている時間や湯温を好みに合せ、羞恥心や負担感に配慮し同性介助にしたり、危険がない部分については職員も扉の外で様子を伺い見守るようにしている。入浴を嫌がられる方は気の合う職員から早めに声かけし促したり、季節を楽しんで頂けるよう菖蒲湯等を取り入れている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りやおしぼりたみ、庭の掃除、洗濯物干し・たたみ、花を生けて頂いたり、読書や新聞を読んだり、時代劇等のテレビ鑑賞や大正琴、音楽を聴いたり、家族と一緒にカラオケをしたり職員も一緒に入ったり、踊ったり自由に楽しんで頂いている。生活歴・趣味・習慣を活かして楽しみ事を持って頂けるよう、取り組みを続けているが職員が時に手を出し過ぎてしまっている時があり、まだ掘っていない方がある。	○	時間にゆとりを持って接する事や、手を出し過ぎていると思われる時に注意し合いながら、一人ひとりに役割楽しみ事を持って頂けるよう、今後も働きかけを続けられるような取り組みに期待していきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム裏の菜園へ散歩したり、天気の良い日は外出が出来るよう声かけをしている。馴染みのある海や公園、入居者の行きつけだった店等へお連れする事もあり、ご希望をお聞きし家族の協力も頂きながら、月に1回は外出することを心掛けている。身体的に外出が困難な方や進んで外出されない方に、声かけし戸外で過ごして頂く機会を積極的に作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	20:00～5:00迄は防犯上の施錠をしているが、日中は玄関や出入り可能なガラス戸は施錠されておらず自由に出入りされている。職員が作業する場所や向きを工夫したり、見守りを強化したり、建物の構造の面から出入りが一目で解る事や、一人で外出された際は併設施設の事務所で、お茶を出して頂いたり対応して頂いている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の災害発生・火災を想定して年に2回、入居者と職員が消火器を使った初期消火、消防署に通報して実際の避難迄の訓練時間を計って実際に即した訓練を行っている。立地的に難しい状況で地域に協力依頼は行っていないが、隣接ホームや併設施設の協力体制は出来ている。災害に備えた備品等、特に準備されていないが井戸水は自家発電で利用できる所以飲料水の確保は可能である。	○	避難訓練の際消防署の方にも参加して頂く事を考えている。備蓄品として併設施設に準備さはあるが、災害に備えて必要な物品や量等と共に、ホームとしての対応等、検討される事に期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「美味しいものを食べて頂く」を、基本的に栄養士が作成した献立に沿って食事が提供され、月2回の料理教室への参加や、週2回板前長の指導を受けながら料理し、定期的な体重測定や血液検査の結果に基づきカロリーや塩分制限等、医師から助言を頂いている。好みに合わせ肉を魚にする等食材を変えたり、湯引きにする等の調理方法を変えたり、食が進まない時に家族に相談して好みの料理を作る等の工夫をしている。入居者毎の食事量を記録し飲水量を大体確認して、必要な栄養や水分確保の支援に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな梁と高い天井、リビングの大きな窓からは花や海が見え、柔らかな光と和やかな空間に掛け時計やこたつが、家庭的な雰囲気を醸しだしている。廊下の壁に書初め行事の写真や外出時の写真、正月飾りで季節感が漂っている。天気の良い日は窓やドアを開け換気を十分に行い、空気の淀みや臭いが籠らないよう配慮し、消臭剤も随所に置いて居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が落ち着いて過ごせるように畳のベッドを導入し、同じ配色の箆笥が備え付けられている。家族や本人の写真、賞状、位牌、仏壇、テレビ等、使い慣れた物を自由に持ってきて頂き、居室には一輪ざしの花が飾られ居心地良く過ごせるよう支援し、引き続き家族へ馴染みの物を持って来て頂くようお願いをしている。		